

第 15 回総会議事録

1. 日時 2001 年 3 月 28 日(水) 12:00-13:00

2. 場所 武蔵工業大学 821 教室(G会場)

3. 議事

2001 年日本原子力学会春の年会期間中の上記の日時, 場所において, 炉物理部会総会を開催した。議題 (1) については相沢部会長が, 議題 (2) 以降は新部会長が議事の進行を務めることとした。

(1) 次年度の役員候補の選出 (相沢部会長)

任期 1 年の委員候補者および任期満了となる委員から推薦された委員候補者のリストが配布され, 全候補者が信任された。平成 13 年度炉物理部会運営委員は下記のとおりに決まった。

部会長 (1 年) : 工藤和彦 (九大)

副部会長 (1 年) : 竹田敏一 (阪大)

庶務幹事 (1 年) : 古藤健司 (九大)

庶務幹事 (2 年) : 山本敏久 (阪大)

幹事 (学会炉物理部会担当企画委員) : 山根義宏 (名大)

幹事 (学会編集委員) : 山本敏久 (阪大)

幹事 (学会炉物理委員会委員長) : 中川正幸 (原研)

財務小委員会 (1 年) : 別所泰典 (日立)

財務小委員会 (2 年) : 三澤毅 (京大炉)

編集小委員会 (1 年) : 山本敏久 (阪大)

編集小委員会 (2 年) : 山本章夫 (原燃工)

編集小委員会 (2 年 ; HP 担当) : 外池幸太郎 (原研)

セミナー小委員会 (1 年) : 竹田敏一 (阪大)

セミナー小委員会 (1 年) : 北田孝典 (阪大)

学術研究交流小委員会 (1 年) : 若林利男 (サイクル機構)

学術研究交流小委員会 (2 年) : 小原徹 (東工大)

学生・若手小委員会 (1 年) : 小坂進矢 (東電ソフト)

学生・若手小委員会（2年）：辻本和文（原 研）

相沢部会長より退任の挨拶，工藤新部会長より着任の挨拶があった。

（2）本年度決算報告および次年度予算案（山根委員）

平成12年度収支報告がなされ（資料配布），決算が承認された。平成13年度予算案について説明がなされた（資料配布）。特に，一般予算の他に剰余金適正化のために平成13年度から平成17年度にかけての5ヵ年計画特別予算案が提出され承認された。

予算A：夏期セミナー運営費補助（1,500千円）

予算B：海外研究集会・招聘事業（1,014千円）

日韓炉物理国際会議運営費補助（1,500千円）

年度繰越金は100万円まで許されるとの説明があった。企画委員から，学会員を増やす努力を今後も続ける必要がある旨の要望が出された。

（3）夏期セミナー準備状況（竹田委員）

日時：平成13年7月30日（月）～8月1日（水），場所：福井県芦原温泉「政竜閣」にて第33回炉物理夏期セミナーを開催する予定で準備が進められていることが報告された（資料配布）。テーマ：「21世紀の炉物理の道筋をさぐる」，内容：①21世紀に残す言葉，②21世紀の壮年の声，③21世紀の青年の声，④他分野とのつながり，⑤炉物理委員会WG発表，⑥学会研究専門委員会，等を今のところ考えているとの説明があった。参加費は前回並とし，宿泊費は全期間で2万円強を予定しており，現在のところ70名を予約しているとのことであった。前委員から，前回大変好評であった若手の夜のセッションを今回も検討してみてもとの提案が出された。

（4）ANS ミルウォーカーミーティング合同セッション（竹田委員）

ANSの炉物理部門との日米合同セッションが企画され，6月17日～21日，ミルウォーカーにて開催されることが報告された。合同セッションでは22件の発表が予定されておりその内の約半数は日本からの発表であることが報告された（資料配布）。

（5）日韓合同セッション（含，若手の補助）（竹田委員）

韓国原子力学会（200名程度）から日韓合同セッションの企画が提案され，5月24日～25日，韓国済州島において日韓学会合同セッションとして開催されること，日本からは核デ

一タ部会から 2 件・炉物理部会から 4 件の発表が予定されていることが報告された（資料配布）。取り決めでは参加費は徴収しないことになっているとの説明があった。次回（秋の大会）は本学会に韓国から炉物理関連で 4 名程度招待し炉物理関連セッションの一部は英語とする企画提案が紹介された。関連して、核データ部会と炉物理部会の合同セッションを英語とする案が出され、その方向で検討を進めることが確認された。

日韓合同セッションへの部会からの若手派遣について、現時点では宇根崎氏、北田氏、大井川氏の推薦があり、承認された。また、学生部会員も加えることとし 4 月上旬までに自選推薦で申し込むこととした。部会からの派遣補助の予算は運営委員会にて検討することとした。

(6) 企画委員会報告（山根委員）

2001 年原子力学会秋の大会は北海道大学において 9 月 19 日～21 日の日程で開催、5 月 25 日が予稿締め切りとなっていること、2002 年春の年会は神戸商船大学において平成 14 年 3 月 27 日～29 日の日程で開催、平成 13 年 12 月 18 日が予稿締め切りとなっていることが報告された。年会・大会の報告について編集委員会から見直しの提案が出されており、企画委員会では WG で検討し秋の大会以降について方式を考え直すことになったこと、事務局編集作業の効率化のために予稿の受付だけは電子メールで行うことを WG で検討していることが報告された。

企画関連として、「新しい部会がいくつか立ち上がってきているが、関連する部会も増えてきており、今後の部会のあり方等を議論する必要があるのではないか（部会相互については企画委員会で、炉物理については部会内で）」との意見が出された（竹田委員）。

(7) 編集委員会報告（山本委員）

英文誌の投稿規程の見直しが行われ、査読期間の短縮・内容の緩和等で掲載され易くなったので英文誌へ積極的に投稿するよう要請があった。見直された内容として：

「査読は原則として 1 回のみで期間は 20 日、訂正期間 10 日、英語の細かな議論はしない。査読は拾い上げる方針で行う。査読に不満があれば編集委員に不服を申し立てることができ、場合によっては査読者の交代もありうる。」等の説明があった。

部会報について（中島委員）：次号から A4 版で発行の予定で、詳細な仕様を検討中であることが報告された。名簿については、これまで通り氏名と所属だけにとどめることとし、Eメールアドレス等はパスワード付き HP で公開することを考えているとの説明があった。

HP について（相沢部会長）：編集小委員会（山本敏久委員，山本章夫委員）で HP のチェックをお願いする旨の要請があった。

（8）共用炉物理コードシステム特別専門委員会活動報告（小林委員）

2000 年 7 月に原子力学会特別専門委員会（1 年間）として発足した本 WG の平成 12 年度活動報告（3 回の委員会開催）がなされた（資料配布）。

（9）部会懇親会（小坂委員）

部会懇親会（28 日 19 時より「自由が丘」魚や一心）の案内があった。

（10）炉物理委員会 WP テーマ募集について（岡嶋委員）

11 年度発足の 3 つの WP は 2 年間の活動を終了し，13 年度からは新たなテーマを公募し新 WP を設立することが報告された（資料配布）。WP テーマ募集および参加者募集についての情報は，炉物理委員会および部会のメーリングリスト，部会 HP で逐次発信していくとの説明があった。

申し込み締め切り/ WP テーマ募集：平成 13 年 4 月 20 日，WP 参加希望：平成 13 年 4 月 27 日。

（11）その他

相沢部会長より，核データの部会長任期が 2 年であるように，今後の部会運営を円滑に進めるために，当部会も部会長任期を 2 年とすることを検討してはどうかという意見が提案として出された。

以上

文責：古藤